

2008年 第37回長野県登山大会講評

審査員長 大西英樹

審査員	福島伸一	酒井知之	重田 肇
	横澤克彦	木内千明	高橋 清
	村主恭則	池迫一行	浮須由美
	下岡英樹	筒井 清	西牧岳哉
	小沼拓也	小林國弘	

【はじめに】

今年には北アルプスの南部、蝶ヶ岳で大会を行いました。山頂からは穂高や槍を目前に望むことができ、標高も2600mを越える本格的な山岳地帯で大会が開催できたことはうれしいことです。梅雨に入ったばかりのあいにくの天候でしたが、歩行当日は雨に降られることなく、無事に大会を終えることができ、本当に良かったと思っています。山頂では雄大な山々を目にすることができたでしょうか。次は夏合宿等で穂高や槍から蝶ヶ岳を眺めてみてください。

今大会の男子正規参加は14チーム、女子正規参加は2チームで、昨年よりも参加者が少なくなっていました。今回参加した君たちが、山の楽しさを多くの友達に伝え、次年度はもっと多くのチームが参加することを期待しています。

今大会は、標高の高いルートを設定したため特区分はもうけませんでした。また、登山を行う山城の研究をしてもらうため、知識を問う試験を行いました。そのため、各項目の配点が変わりました。

ルート場には残雪が多く、登り下りで苦労をしたパーティーも多かったと思います。雪上歩行をマスターして山の楽しさを広げてください。

1. 体力点（25点）

①審査項目

規定時間 男子6時間 （スタート時刻より6時間以降、2分遅れる毎に0.5点減点）

女子7時間 （スタート時刻より7時間以降、2分遅れる毎に0.5点減点）

男女とも規定重量を設けないサブザック行動としました。

②講評

・規定時間内にほとんどのチームが到着できました。残雪が多く、主稜線では強風の吹く、あまり良くないコンディションの中で、この時間内にゴールできたことは立派であったと思います。よりいっその体力をつけ、安全・確実・楽しい登山を心がけてください。

2. 歩行（15点＝5地点×3項目1点ずつ）

①審査地点・審査項目

A地点（標高1800m付近の急登）・・・・・・・・・・・・歩行バランス、チームワーク、長袖シャツ

B地点（標高2400m付近の雪上）・・・・・・・・・・・・歩行バランス、チームワーク、帽子

C地点（妖精の池付近の雪上）・・・・・・・・・・・・歩行バランス、チームワーク、スリッパ・転倒

D地点（標高2450付近の雪上の下り）・・・・・・・・・・・・チームワーク、スリッパ・転倒、ロングスパッツの状態

E地点（標高1850m付近の急な下り）・・・・・・・・・・・・歩行バランス、パッキング、スリッパ・転倒

②講評（より具体的なアドバイスのため、歩行審査員からの指摘を一通り簡単に記述します。）

・雪上の歩行で慣れているチームと、慣れていないチームの差が目立ちました。特に下りではその差が大きく現れ、腰が引けた歩行になっていました。

・雪上での歩行はロングスパッツが必要です。全てのチームが装着していましたが、ずり落ちていた人が多く見られました。きちんと装着してください。

・強風下では、身体の保温に努める必要があります。手袋をしてください。

・帽子は、チームの中で1名でもかぶっていないと減点になります。気をつけてください。

・下りの後半で疲れが出て、歩行バランスが悪くなったり、スリッパするチームが見受けられました。疲れた時には、順序を入れ替えるなどして、隊列を乱さない工夫が必要です。

・ザックが開いたまま歩行している人がいました。注意してください。また、必ずゼッケンをつけてください。

3. 地形（18点＝12地点×1.5点）

①審査項目

地形・その地点の特徴などから現在位置を正確に読みとることができるか。

②講評

・今回ポストを設置した地点は、上記の観点から見て、正確格に地図上に落とせる地点を多く選びました。

・地形については全国の基準で「許容誤差は原則 2mm とするが地形の顕著な所はその限りではない。」との例が出ています。今回はそれを元に採点しました。

・地図をよく読めるチームと読めないチームの差が大きく出ました。普段から地図を読む練習を行ってください。

・記入に当たっては明確な線を細く記入してください。判定しにくい線は減点の対象となります。

4. 装備（10点）

（1）個人装備（8点＝8項目×1点）

①審査項目

ア) コンパス イ) 地図（カラーコピー可。ただし2.5万図も共同装備として1組持っていること）

ウ) 細引き エ) 非常食 オ) 計画書 カ) ホイッスル キ) ヘッドランプ ク) ナイフ

②講評

・地図については、国土地理院の 1/25000 のカラーコピー地図の携行も良いとしましたが、必ず1名は原本を持つようにしてください。また、移動する範囲をカバーするものを持ってきてください。

・ビニールひもは細引きではありません。細引きについては、岩場等での安全通過のために使用するものと考えます。全国規約では直径4mm～6mm程度のものを5mほど持つこととなっていますが、1.2mのループ状にしたものを2,3本でも良いと思います。その際、必ず末端処理（ほつれないように熱処理をする）を施してください。

（2）共同装備（2点＝2項目×1点）

①審査項目

ア) 医薬品(体温計を含む) イ) ツェルト

②講評

・医薬品はかぜ薬と体温計をチェックしました。持っていないチームもありました。基本的なものは持つようにしましょう。また、薬の種類を把握しておいてください。

5. 生活技術（10点）

（1）テント設営（5点＝5項目×1点 評価は0.5刻み）

①審査項目（テント設営は10分間）

ア) 手際のよさ（チームワーク、手順） イ) ザック雨ぶたや袋の処理（強風雨想定）

ウ) ベグ・張り綱の適切さ（ベグの角度、フライとの間隔、四隅、張り綱の張り）

エ) 軍手の使用（ベグを持つ手） オ) テント内の整理（テントマット、ザックの処理）

②講評

・審査項目は昨年と同一でした。テントの設営は、何度か繰り返し集中して行えば必ず上手になります。手早く正確に設営できるようにすることは、実際の山行時雨天だった場合など、できるだけ疲労を少なくかつ快適なテント生活をする上で役に立つものです。

・新しいテントを導入した際は、そのテントの特性を理解し、そのテントにあった設営方法を習熟しておいてください。

・ベグを打つ手は軍手をつけてください。ポールはジョイントに泥などが付かないよう、直接地面におかないようにしましょう。

・フライは可能な限りピンと張り、テント本体とのスペースを確保してください。そうでないと雨でテント本体がぬれたり、テント本体から出た水蒸気がフライで結露し、テントがぬれてしまう場合があります。

・ランナー（張り綱に取り付けて長さを調節するアルミあるいはプラスチック製の用具）の位置を検討されることを望みます。ランナーはテント・フライに近い方にセットした方が便利かと思います。

（２）炊事（５点＝５項目×１点 評価は0.5刻み）

①審査項目

- ア) 火器使用時の手袋使用・調理時のコッヘルの保持 イ) コンロ台、風防板の有無と扱い
ウ) 食糧計画との一致、食料の区分け（２日目の朝食） エ) ゴミを出さない工夫
オ) 調理シートの有無と扱い

②講評

- ・今回は雨天のため、テント内での炊事となりました。テント内での炊事は危険が伴います。特に熱いものが入っているコッヘルは、誰かが必ず保持を行っててください。
- ・コンロ台はコンロを安定させるために使用するものです。小さすぎるものはかえって安定性が悪くなる場合があります。安定するものを使ってください。
- ・調理シートを用意し、使い方を把握してください。
- ・食事のメニューは、カロリーが十分とれるものにしてください。

6. 気象（7点）

（１）天気図作成（5点）

①審査項目

気象通報を聞き取り、放送を含め40分で天気図を正しく作成できるか。

②講評

- ・比較的平易な気象通報を基にしたこともあり、例年よりは全体的に完成度が高かったように思います。しかし、練習している者と練習不足の者の差がはっきりと出ました。記号を正確に覚え、各地の気象要素をきちんと記入することから始めてください。その際、風向や風力記号（羽の向き）等に注意してください。とにかく気象通報を聞いて何度でも書いてみることです。
- ・天気図用紙は広域なので方向には注意が必要です。地図の上が必ずしも北にはなりません。経線の方向が南北の方向です。

（２）設問（2点）

①審査項目

県内の山岳気象や基本的気象知識を有しているか。

②講評

- ・風に伴う体感温度、気温減率、昨年度の気象トピックス、地球温暖化時代に伴う現象について出題しました。日頃報道される気象に関するニュースや番組を興味を持って見てください。

7. 知識（5点）

①審査項目

山行を行う山域についての知識を有しているか。

②講評

- ・今回初めて行ったものであったが、事前に出された文章については、ほぼ読まれていたと思います。ここに書かれていた内容を実際の登山の中で実感して、また確認しながら歩いていただけたでしょうか。しかし、文章にのみこだわり、今回の山域の、地図に関しての事前研究について不足していると思われるチームがいくつかありました。具体的には、今回のルート周辺にあった地図記号の名称や地名を正確に答えられないことです。登山はスポーツ一つではありませんが、歴史や文学、また地質など理科関する方面など、幅広い分野へ広がる文化です。事故を起こさず楽しむための事前研究も必要ですが、広い視野を持ち、今後多方面に興味関心を広げていってほしいと思います。

8. 計画・記録（10点）

（1）計画書（6点）

①審査項目

- ア) 緊急連絡先（留守本部） イ) メンバーの生年月日・血液型 ウ) 保護者名・連絡先
エ) 共同装備の個人分担記載 オ) 予備食の記載
カ) 手書きの概念図（ルートの記載、進行方向があること、スケール、ノースマークがあること、蝶ヶ岳、長堀山が記してある事）
キ) 断面図（2480標高点、2625標高点、水平距離の記載があること）
ク) 医薬品リスト（風薬とその使用法の表記）

③講評

- ・全体を通して：よく配慮された計画書がある一方で、「メンバー表」「食糧計画」等基本的な事項が欠け

ているものもあり、全体として差が大きく出ました。全国高等学校登山大会審査基準や他校の計画書を参考に、よりよいものを目指してください。県大会では、他の出場校と交換を行い、他の学校の良いところを取り入れていけば、良い計画書ができあがるでしょう。

- ・留守本部について：夜間、休日の連絡先も必要です。学校の名称と電話番号だけでは不足です。
- ・メンバー表について：今回血液型に関してはＡＢＯ式が記入してあればよしとしましたが、R h 式の血液型も記載するようにしてください。
- ・装備表について：誰が何を持っているかをはっきりと記載してください。計画書は登山時に提出する物です。自分たちだけがわかるものでは意味がありません。誰が見てもわかるものを作成してください。
- ・食糧計画について：行動食、予備食、非常食については、それぞれの性格の違いをしっかりと認識してください。数量の記述のない所がありました。
- ・医薬品について：「風邪薬」や「胃腸薬」のみの記載だけの学校がありました。それぞれの薬品名と一回の分量、一日の服用回数について明確な記述をするようにしてください。
- ・概念図について：スタート地点からゴール地点までの全ルートと進行方向、主要ピークや地図に記載されている標高点、尾根線谷線の記載は必要です。またスケールや方位についても記載するようにしてください。
- ・比高断面図（高低図）について：スタートからゴールまでの全ルート上の、地形図に記載されている主要ピーク、主要標高点および地点、水平距離と標高のスケール記載は必要です。

（２）基準記録用紙（4点＝4地点×2項目×0.5点）

①審査項目

以下の4地点に置いて、到着時刻、出発時刻、天候、各人の体調、主な動植物、記事（地形、展望、出来事等）、自然観察などから各地点2項目についての記載がなされているか。

- ア) 徳沢キャンプ場（スタート地点） イ) 長堀山山頂 ウ) 蝶ヶ岳、蝶ヶ岳ヒュッテ
エ) 横尾山荘

②講評

- ・記録は、次回の山行の際の参考になるような記録の取り方でなければ意味がありません。
- ・毎回記述することですが、フラッグの位置（フラッグHの地点等の記述）を記録しても山行の参考にはなりません。明確にどこの場所かが分かる表記をする必要があります。従って標高のみの記述も参考にならないはずです。スタート地点、ゴール地点だけの表記ではなく客観的に分かる表記をしてください。
- ・県大会では基準記録用紙を使用していますが、日頃の山行でもこれに準じた記録を取るよう心がけてください。

選手、オブザーバーのみなさん、監督・引率顧問の先生方、ご苦勞様でした。

講評については、次回の参考になるようできるだけ詳しく記述したつもりです。今年の反省をふまえ、是非来年は今年以上の成績を目指してください。

（文責 大西英樹）